包まれた触れ幅に

名古屋市文化基金事業
ファン・デ・ナゴヤ美術展2027
包まれた触れ幅に

会期 2027年1月8日（金）から17日（日）
10時から19時
11日（月・祝）、17日（日）は17時まで

休館日 12日（火）

会場 名古屋市民ギャラリー矢田 第1展示室

入場無料

参加作家
三浦琉聖
AHMED MANNAN
峰松沙矢
玉住聖

主催 ファン・デ・ナゴヤ美術展2027「包まれた触れ幅に」実行委員会
公益財団法人 名古屋市文化振興事業団

Fan De Nagoya Art Exhibition
ファン・デ・ナゴヤ美術展

Nagoya, City of Design

公益財団法人 名古屋市文化振興事業団



包まれた触れ幅に

本展覧会〈包まれた触れ幅に〉は、絵画を中心に制作している 4 人の作家が、個人制作と共同制作を介して、内と外、個と他者のあいだを往還する「現代の包（ゲル）」を模索する企画です。それぞれの絵画作品のほか、ドローイングを施したパーツを郵送し繋ぎ合わせた、移動式住居である巨大なゲルを展示します。

私たちが美術を学び始めて間もない頃に開催された「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」をきっかけに、そこで目の当たりにした芸術と社会との関係や個人的な経験は、自身の表現を考える上で重要な契機となりました。 2021 年のコロナ禍には東京にて同メンバーによる展覧会を開催し、そこから 5 年を経た 2027 年、再び 4 人が集まり、我々の出会いのきっかけや制作の転機となった愛知で展覧会を行います。本展では、異なる場所と時間のなかで形成されてきた個々の実践を、共同制作を介してひとつの空間へと接続する試みです。無造作に放たれた過去と現在を手作業で縫い合わせ、個と共同の新しい在り方を捉え直します。

会期

2027 年 1 月 8 日 ㊎
から 1 月 17 日 ㊐

開館時間：10 時から 19 時
11 日㊊㊗、17 日㊐ は 17 時まで
休館日：1 月 12 日㊋



2021 年に行った東京展の様子　場所：四谷未確認スタジオ　　写真：松尾宙人

会場

名古屋市民
ギャラリー矢田
第 1 展示室

出展作家
三浦琉聖
AHMED MANNAN
峰松沙矢
玉住聖

主催
ファン・デ・ナゴヤ美術展 2027
「包まれた触れ幅に」実行委員会
公益財団法人
名古屋市文化振興事業団

関連イベント |

“3 企画合同ギャラリーツアー”
1 月 9 日 ㊏ 14 時から 15 時 30 分
ゲスト：鈴木俊晴 (豊田市美術館学芸員)
集合場所：第 2 展示室　参加無料

“ゲルに包まれてクロージングトーク”
1 月 17 日 ㊐ 14 時から 15 時 30 分
集合場所：第 1 展示室　参加無料

同時開催の展覧会 |

第 2 ～ 4 展示室「崩壊の装飾」
企画者・出品作家：杉谷遊人

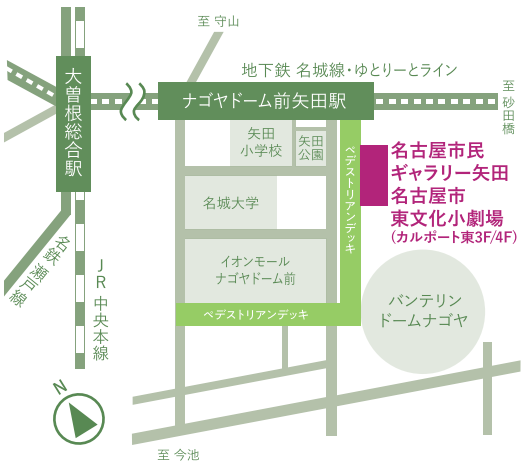
第 5 ～ 7 展示室「律動」
企画者・出品作家：小畑咲音

名古屋市民ギャラリー矢田

〒461-0047
名古屋市東区大幸南一丁目 1 番 10 号
カルポート東 3F/4F
TEL 052-719-0430

【交通アクセス】
●地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」下車
1 番出口南へ徒歩 5 分
●ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」下車 南へ徒歩 3 分
●市バス「大幸」下車 徒歩 5 分
（名駅 15 号系統、東巡回系統）

【お問合せ先】
公益財団法人名古屋市文化振興事業団
TEL 052-249-9385 (平日 9:00 ～ 17:00)



感動を育てる種をまこう。
名古屋市文化基金



三浦琉聖

2000年岐阜県生まれ。2025年愛知県立芸術大学大学院美術研究科 油画・版画領域修了。
美術領域におけるデザインに着目し、印刷物と絵画をはじめとする美術作品との関係を再考している。
コンセプチュアルアートの文脈を参照し、展覧会の告知媒体であるフライヤーが作品として成立する可能性を探求するとともに、デザインと美術、絵画と印刷物といった異なる領域を横断しながら作品を制作している。



AHMED MANNAN

2000年大阪府生まれ。2026年東京芸術大学大学院 美術研究科 油画技法材料第二研究室 修了。
主に絵画を制作しており、私自身の日常生活における私的体験などをモチーフとしながら、実際に使用していた日用品など、自身の日常における身近な物を制作素材として扱い、私にまつわる様々な素 材を横断しながら作品制作を行なっている。



峰松沙矢

2000年大阪府生まれ。2026年京都市立芸術大学 美術研究科 修士課程 美術専攻 油画 修了。
他者、身体、記憶にまつわる事象と自己を保つ在り様の相互関係から発生した内情と物質への回帰を往来することで視座を昇降させる制作をしている。



玉住聖

1999年大阪府生まれ。2022年大阪芸術大学 芸術学部 美術学科 油画コース卒業。
私は情報過多シンドロームや嘘により、今日も紫色の風船のように実感が不在しています。実感の木にしがみ付く為、機械的な精度で過剰なイメージ。ノイズ。毒。傷。の連鎖を日々の支持体（透明）に貼り付けています。浮遊している魂の定着方法について絵画・彫刻・ノイズ音楽を横断しながら模索しています。